

# 広島芸術学会活動報告

平成二十九(二〇一七)年七月一日〜平成三十(二〇一八)年六月三十日

▼平成二十九年七月十三日付で「藝術研究2017」(年報第三十号)を発行した。

▼平成二十九年七月十六日

サテライトキャンパスひろしま(大講義室五〇二)において、平成二十九年年度総会および第三一回大会を開催した。

総会は大島徹也事務局長の開会のことば、青木孝夫会長の挨拶の後、末永航を議長に選出し議事を進めた。第一号議案「平成二十八年度事業報告並びに決算について」について、資料にもとづき事業報告および決算報告が大島事務局長からなされ、続いて、樋口聡監査および船田奇岑監査による監査の報告が船田監査よりなされ、審議の結果、承認された。第二号議案「平成二十九年年度事業計画並びに予算案について」について、資料にもとづき事業計画および予算案が大島事務局長から説明され、審議の結果、承認された。すべての議事審議が終了後、青木会長の挨拶があり、閉会した。参加者数は三十四名。

大会は、研究発表(三件)とシンポジウムを行った。参加者数は四十八名。

研究発表は、①佐々木千嘉(金沢美術工芸大学大学院博士課程後期)「公的教育機関と県主催展覧会による地方芸術文化の発展―香

川県工芸学校と香川県美術展覧会を中心に―」、②吉田拓(広島女学院大学講師)「映画以前の伊丹万作―画家としての思考―」、③村上敬(静岡県立美術館上席学芸員)「川村清雄《海底に遺る日清勇士の髑髏》再考」。

シンポジウムは「広島の地域性と美術」をテーマとし、司会は福田道宏(広島女学院大学准教授)、パネリストは城市真理子(広島市立大学准教授)、隅川明宏(広島県立美術館学芸員)、花本哲志(頼山陽史料館主任学芸員)、宇多瞳(広島市現代美術館学芸員)、今井みはる(公財)みやうち芸術文化振興財団・アートギャラリ―ミヤウチ学芸員)の五名。

▼平成二十九年九月二日

会報第一四四号を発行。巻頭言は樋口聡(広島大学大学院教授)の「アートの力に励まされて」。第三二回大会の研究発表の報告は、①佐々木千嘉の発表について兼内伸之介(広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期)、②吉田拓の発表について下岡友加(広島大学大学院准教授)、③村上敬の発表について沼田有史(広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期)が執筆した。また、シンポジウムの報告は福田道宏(広島女学院大学准教授)が執筆した。

▼平成二十九年九月三十日、十月一日

第一二〇回例会として、「ひろしまオペラルネットワーク公演〈コジ・ファン・トゥッテ〉」（ひろしまオペラ・音楽推進委員会主催、於JMSアステールプラザ大ホール）を両日に自由観賞した。また十月一日の公演終了後に感想交換会（於JMSアステールプラザ美術工芸室）を行った。感想交換会の参加者数は三名。

▼平成二十九年十一月二十四日

会報第一四五号を発行。巻頭言は古谷可由（公益財団法人ひろしま美術館学芸部長）の「素人の時代」。また、柿木伸之（広島市立大学准教授）による第一二〇回例会の報告を掲載した。

▼平成二十九年十二月十六日

広島市立大学サテライトキャンパス（大手町平和ビル九階）において、第一二一回例会を開催した。研究発表は①倉田麻里絵（関西学院大学大学院文学研究科大学院研究員）の「ミシェル・ルグランにおける『鳥の鳴き声』の一考察」、②李京彦（大阪芸術大学大学院嘱託助手）の「戦争と『写真館文化』…西日本地域の事例を中心とした考察」。参加者数は二十四名。

▼平成三十年三月一日

会報第一四六号を発行。巻頭言は加藤哲弘（関西学院大学文学部教授）の「ヴィクトリア朝絵画の人氣について」。第一二一回例会の研究発表の報告は、①倉田麻里絵の発表について馬場有里子（エリザベト音楽大学准教授）が、②李京彦の発表について山下寿水（広島県立美術館学芸員）が執筆した。

▼平成三十年三月二十一日

広島大学（東広島キャンパス）学生プラザ多目的室一・二において、第一二二回例会を開催した。研究発表は①角田知扶（呉市立美術館学芸員）の「谷口仙花の描いた女性像―戦前の作品を中心に」、②能登原由美（ヒロシマと音楽）委員会の「明治期の広島における洋楽普及のネットワーク―一次史料の調査をもとに」。参加者数は二十八名。

▼平成三十年五月六日

会報第一四七号を発行。巻頭言は青木孝夫（広島大学大学院総合科学研究科教授）の「クール・ジャパン再考」。第一二二回例会の研究発表の報告は、①角田知扶の発表について市川由（広島大学大学院総合科学研究科博士前期課程）が、②能登原由美の発表について馬場有里子（エリザベト音楽大学准教授）が執筆した。

▼平成三十年五月二十六日

第一二三回例会を開催した。この例会では、同年三月にリニューアルオープンした海の見える杜美術館（廿日市市）を、城市真理子（広島市立大学准教授）の案内のもと訪問した。まず、新設された竹内栖鳳展示室での展示「知られざる竹内栖鳳―初公開作品を中心に―」を同館学芸員の青木隆幸氏の解説とともに見学し、続いてリニューアルオープン記念特別展「香水瓶の至宝―折りとメッセージ―」を当学会会員で同館学芸員の森下麻衣子の解説とともに見学した。参加者数は十二名。

▼平成三十年六月二十五日

会報第一四八号を発行。平成三十年度総会・第三二回大会のスケジュール、研究発表要旨、シンポジウムの案内を掲載した。第一二三回例会の報告は、大島徹也（広島大学大学院准教授）が執筆した。

◆会員状況

平成三十年六月三十日現在、法人会員二法人、個人会員百九十二名（一般会員百三十七名、学生会員五十五名）

※文中、当学会会員については敬称を略させていただきました。また、肩書きは当時のものです。

事務局